

明和学園短期大学基本情報の公開

令和元年5月更新

I 明和学園短期大学の基本理念

1 建学の精神 : 進取

2 明和学園短期大学ディプロマポリシー(学位授与方針)

人間生活の質の向上は、時代の変転や社会の変化を越えた人類普遍の願いであり、高等教育は、各々の専門領域からこの願いの実現に寄与することを期待されている。

本学は、県内唯一の生活学科の短期大学として、保育・幼児教育の分野と栄養・栄養教育の分野で、人間性豊かで、かつ社会性の高い保育士・幼稚園教諭と栄養士・栄養教諭を育成して社会の期待に応えたいと願っている。

また、本学の学生は、将来の職業や社会的な役割において、保育、教育、健康、治療、介護等にかかわって、人のライフステージに応じた食の問題に向き合う機会が多いことが特徴である。

こうしたことから学生は、専門分野の学修の一方で、本学の念願のもと、人間生活の根源である食について専攻を越えた生活学科共通の課題として学ぶ。そして、将来の職務上でかかわる人々を、安全な食と健康な食生活に関心を持って暮らすようにリードするための知見や方法を修得し、その成果を卒業研究として結実させることとしている。

本学は、この卒業研究の評価にもとづいて短期大学士の学位を授与する方針である。

II 教育研究上の基礎的な情報

1 学科、専攻の名称及び教育研究上の目的

(1) 学 科 【生活学科】

幼児保育・教育と栄養に関わる専門的職業人を育成して、地域の人びと生活の発展に貢献する。

(2) 専 攻 【こども学専攻・栄養専攻】

①こども学専攻 幼児保育・教育や障害児教育、社会福祉について総合的に学び、保育士と幼稚園教諭の資格・免許を取得して、保育、幼児教育、福祉の分野で地域に貢献する人材を育成する。

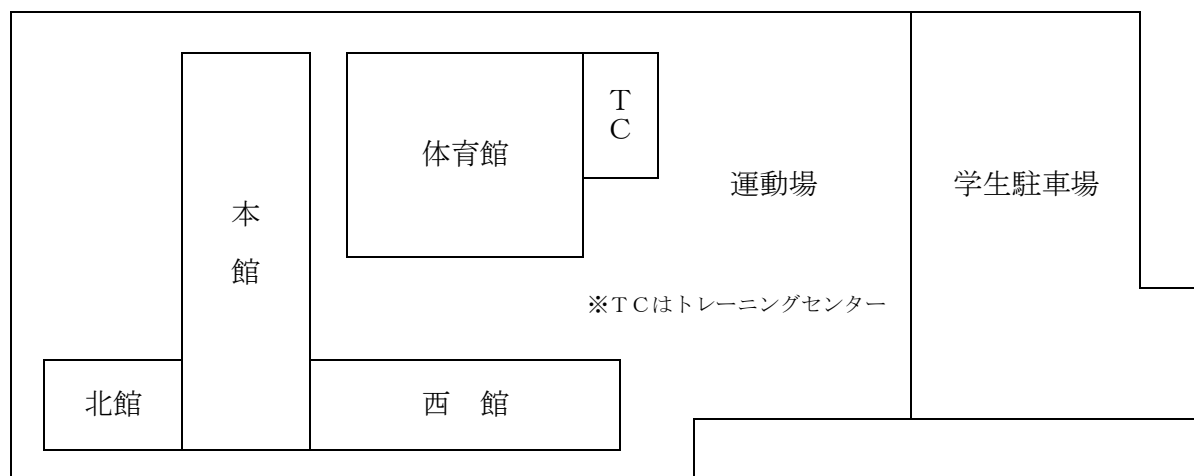
②栄養専攻 栄養及び栄養の指導、食と健康について総合的に学び、栄養士、栄養教諭の免許を取得し、栄養指導や健康管理指導を通じて栄養の分野で人の健康を支える人材を育成する。

2 教員数(令和元年5月1日現在)

- | | | |
|------------------|-----------------------------|---------------------------|
| (1) こども学専攻専任教員 | 7名 | 平均年齢 52.0 歳 |
| | 専任教員一人当たり学生数 7.6 人 | |
| | 教 授 3名(男1、女2) | |
| | 准教授 1名(男0、女1) | |
| | 講 師 3名(男1、女2) | |
| | 60代・4名、50代・0名、40代・1名、30代・2名 | |
| (2) 栄養専攻専任教員 | 9名 | 平均年齢 61.2 歳 |
| | 専任教員一人当たり学生数 8.8 人 | |
| | 教 授 6名(男2、女4) | |
| | 准教授 3名(男0、女3) | |
| | 講 師 0名(男0、女0) | |
| | 60代・6名、50代・2名、40代・1名 | |
| (3) 両専攻に属さない専任教員 | 6名 | 平均年齢 62.0 歳 |
| | 教 授 5名(男5、女0) | |
| | 准教授 1名(男0、女1) | |
| | 60代・6名 | |
| (4) 兼 任 教 員 | 15名 | 専任教員と兼任教員の比率(専任1 : 兼任0.7) |

3 校地・校舎等の施設その他学生の教育研究環境(令和元年5月1日現在)

- (1) 校地面積 16,261 m²
- (2) 校舎面積 11,420 m²
- (3) キャンパスの概要
 - 本館 前橋市昭和町三丁目7番27号 5階建4,750 m²
 - 1階 事務室(受付窓口)、入試課・アドミッションオフィス、保健センター、図書館
 - 2階 教務課、学生課、法人事務局、会議室、応接室、学生更衣室、その他
 - 3階 講義室、食品加工実習室、食品学実験室、薬品保管室、栄養専攻教員室
 - 4階 講義室、学生相談室、こども学専攻教員室、学生更衣室、法人事務局センター
 - 5階 講義室、視聴覚室、保育実習室
 - 北館 前橋市昭和町三丁目7番27号 6階建2,385 m²
 - 1階 給食実習室(厨房)、給食実習食堂、食品庫
 - 2階 第1食物系実習室、第2食物系実習室
 - 3階 音楽リズム室、情報系実習室、情報系研究室
 - 4階 音楽室、器楽室、レッスン室、音楽研究室
 - 5階 記念講堂
 - 西館 前橋市昭和町三丁目7番27号 4階建2,149 m²
 - 1階 第一図画工作室、図工準備室、心理学研究室(前橋こどものへや)、書庫
 - 2階 研究室(教育、保育、食生活、公衆衛生、食物・栄養、食品科学、幼児教育)
 - 3階 キャリアサポートセンター、学生自習室、学生自治会室、同窓会室
 - 4階 第二図画工作室、多目的ホール
 - 体育館 前橋市昭和町三丁目7番27号 1,135 m²
 - トレーニングセンター 前橋市昭和町三丁目7番27号 160 m²
 - 運動場 前橋市昭和町三丁目7番27号 6,603 m²
 - 学生駐車場 前橋市昭和町三丁目7番27号 100台駐車可能
- (4) 図書館 幼児教育関係及び栄養関係を中心に約40,000冊を収蔵
- (5) その他の施設
 - 女子寮 前橋市昭和町三丁目4番15号 3階建844 m²
- (6) 校地・校舎・運動施設等の配置図



4 授業料、入学料その他大学が徴収する費用(令和元年度入学生)

(1) 初年度学納金

入学金	270,000円
授業料	600,000円
学園維持費	200,000円
設備整備費	60,000円
実験実習費	60,000円

(2) 課程費(2年分、1年次前期の履修登録時に納入)

こども学専攻	保育士課程費	30,000円
	幼稚園教諭課程費	30,000円
栄養専攻	栄養士課程費	30,000円
	栄養教諭課程費	30,000円

(3) その他の経費

① こども学専攻

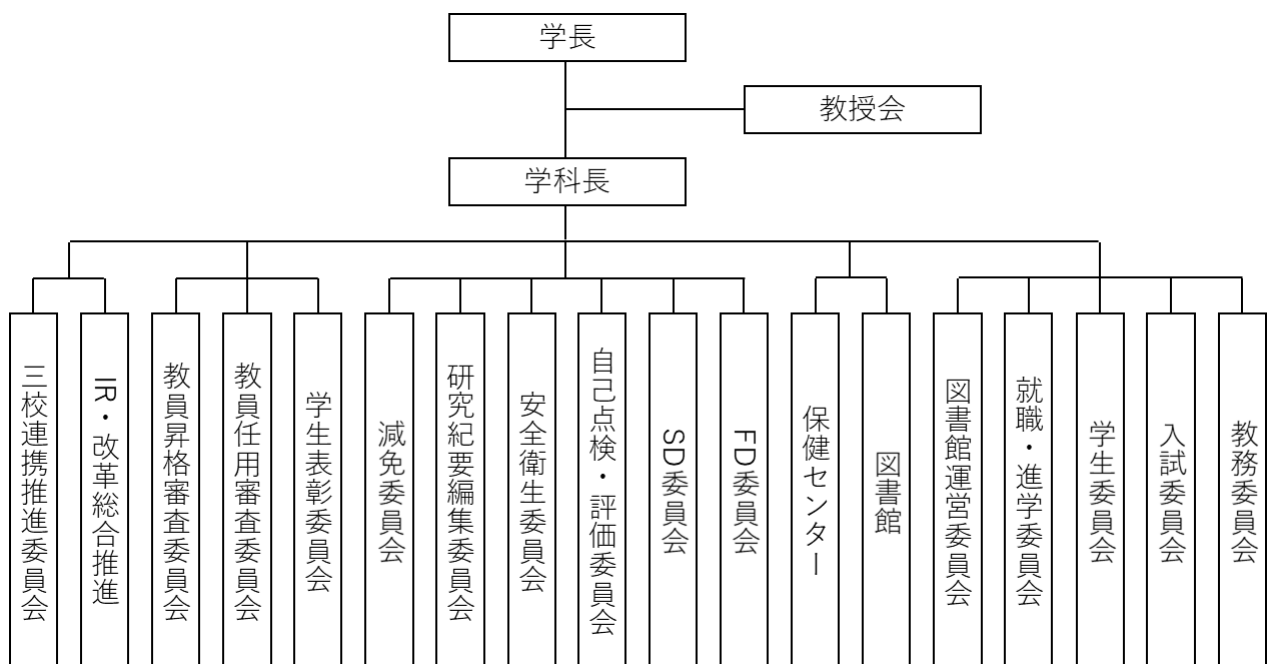
傷害保険料	2,430円
教育振興会費	12,000円
学生自治会費	1,000円
同窓会費	10,000円(終身会費)
実習検査費	4,070円
教材費	18,500円

② 栄養専攻

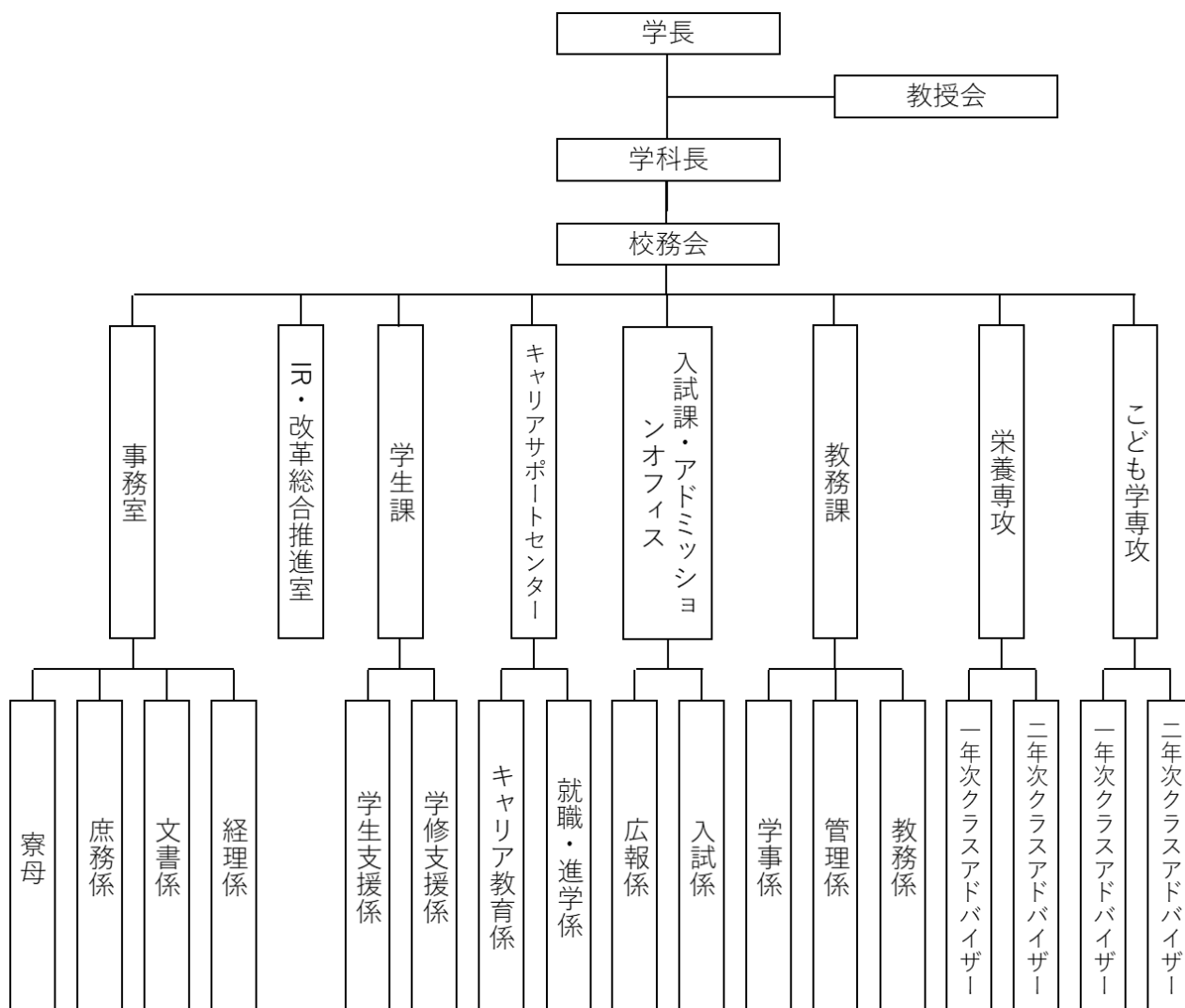
傷害保険料	2,430円
教育振興会費	12,000円
学生自治会費	1,000円
同窓会費	10,000円(終身会費)
実習検査費	6,000円
教材費	75,900円

III 教員組織、運営組織、教員の教育・研究業績にかかわる基本情報

1 明和学園短期大学教員組織



2 明和学園短期大学の運営組織



3 教員の学位・資格及び教育研究業績

本学HPの「情報の公表」の「明和学園短期大学の教員情報」で公表しています。

IV 入学及び在学生、進級・進路等にかかわる基本情報

1 入学者受入方針、募集定員、収容定員、令和元年度の入学状況等

(1) アドミッションポリシー(入学者受入方針)

①こども学専攻アドミッションポリシー

保育分野の専門教育や教職科目、学外での各種実習を通じて、保育、幼児教育の現場で活躍できる基礎、基本となる学力、知識、実践力の修得。特に、生活学科での保育者養成の特長として、食育実践力のある保育者、幼児教育者を育成。また、生涯にわたって学び続ける姿勢の獲得といった向上のために、以下のように求める学生像と入学者選抜の基本方針を示します。

《本学の求める学生像》

- 幼児への保育や教育、障害のある方への支援、福祉の分野に強い関心を持ち、二年間で保育士・幼稚園教諭免許の資格取得を目指す人。

- 保育士、幼児教育者として、将来職務上でかかわる子どもや利用者の方々を、安全な食と健康な食生活に関心を持って暮らすようにリードできる力を身につけたいと考えている人。
- 保育、幼児教育を学ぶための基礎学力を身に付けている人。また、保育の専門科目を学ぶ資質として、豊かな感性を持ち、それを伝えるための表現力としての音楽、美術、体育、国語表現の基礎的な力を有している人。
- 将来、子どもとの質の高いコミュニケーションを実現する基礎として、自己の価値観にとらわれず多様な価値観を受け入れ柔軟な思考でコミュニケーションを考えることのできる人。

②栄養専攻アドミッションポリシー

栄養の専門教育や教職科目、学内外での各種実習を通じて、将来にわたって栄養士として現場で活躍できる基礎、基本となる学力、知識、実践力の修得。特に食育では、子どもから成人、高齢者に至るまで、ライフステージに応じた間断のない食育指導のできる状況把握力や問題解決力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、社会的活動力を学生が自ら高めるといった向上のために、以下のように求める学生像と入学者選抜の基本方針を示します。

《本学の求める学生像》

- 多様化する社会における食生活と栄養の関わりに関心を持ち、専門的な知識・技術・実践力を身に付け、栄養士免許の取得を目指す人。
- 食育の専門家として栄養教諭免許を取得し、将来職務上でかかわる人々を、安全な食と健康な食生活に関心を持って暮らすようにリードできる力を身につけたいと考えている人。
- 栄養学をはじめとした専門科目を学ぶための基礎として、生物や化学、数学の基礎学力を身に付けている人。
- 食育や栄養指導にあたっては、対象者の方と質の高いコミュニケーションを実現する基礎として、自己の価値観にとらわれず多様な価値観を受け入れ柔軟な思考でコミュニケーションを考えることのできる人。

③入学者選抜の基本方針 こども学専攻・栄養専攻共通

- 全ての入試区分で面接（AOでは面談）を実施します。これは、学力以外の保育者や栄養士への適性や目的意識、コミュニケーション能力を評価するためです。
- 面接の時間内に履修教科に応じた内容での口頭試問を実施します。口頭試問では、本学での学修に必要と考えられる知識、学力の確認と知識、学力の活用を評価します。
- 一般入学試験では、小論文を課します。これは、語彙力、文章での表現力、論理的で柔軟な思考能力をはじめとした総合学力の確認を目的としています。
- AO入試では、課題を課します。調査書での学力の確認にとどまらず、課題では、主体的に学ぶ姿勢、論理的で柔軟な思考能力、知的好奇心の確認を目的としています。
- 各種推薦入試、AO入試、各種特別入試では、志望理由書を課しています。志望動機、各種活動での実績や活動を通じての成長を評価の対象とします。また、自己推薦入試での自己推薦書も同様の評価をします。

(2) 募集定員と収容定員

専攻	募集定員	収容定員	収容定員の合計
こども学専攻	50名	100名	200名
栄養専攻	50名	100名	

(3) 令和元年度の入学状況(平成31年4月1日現在)

専攻		出願者数	受験者数	合格者数	入学者数	専攻合計
こども学専攻	男	1名	1名	1名	1名	18名
	女	19名	19名	19名	17名	
栄養専攻	男	3名	3名	3名	3名	36名
	女	35名	35名	35名	33名	
合計		58名	58名	58名	54名	

(4) 平成27年度から平成29年度の入学者数と卒業者数(学位授与数)

入学年度	専攻	入学者数	卒業者数	2年間退学者数	2年間退学率
平成27年度	こども学専攻	54名	52名	2名	3.9%
	栄養専攻	40名	39名	1名	2.6%
平成28年度	こども学専攻	47名	44名	3名	6.8%
	栄養専攻	37名	35名	2名	5.7%
平成29年度	こども学専攻	39名	36名	3名	8.3%
	栄養専攻	35名	34名	1名	2.9%

2 平成30年度卒業・進級、進路結果及び退学等の状況(平成31年3月末日現在)

専攻・学年	平成30年4月在籍数	卒業数	就職者数 (専門分野の就職)	進学者数	退学者数	留年者数
こども学専攻2年次	36名	35名	35名 (29名)	0	0	1名
栄養専攻2年次	34名	34名	34名 (25名)	5名	0	0
専攻・学年	平成30年4月在籍数	進級数	/		退学者数	留年者数
こども学専攻1年次	35名	33名			1名	1名
栄養専攻1年次	47名	43名			4名	0

3 令和元年度在学生数(令和元年5月1日現在)

専攻	1年	2年	専攻合計	定員充足率	社会人学生	留学生等
こども学専攻	男	4名	5名	66.0%		0
	女	30名	48名			
栄養専攻	男	5名	8名			
	女	38名	71名			
合計	55名	77名	132名			含、海外派遣

V 学生の修学にかかわる基本情報

1 学修の評価及び卒業、資格・免許取得にかかわる基準

(1) 学修の評価の基準

- ① 学修の評価は、試験の成績、提出課題やレポート等の提出等の平常の成績及び出席状況とを総合して判定する。
- ② 上記①によって判定された成績は、S、A、B、C、Dの5段階に評価する。
- ③ 成績100点～95点を評価S、94点～85点を評価A、84点～70点を評価B、69点～60点を評価C、59点～0点を評価Dとし、評価Dは不合格として単位修得を認めない。

(2) 卒業認定の基準

- ① 本学に2年以上在学し、学則別表第1の1(こども学専攻教育課程)又は第1の2(栄養専攻教育課程)に定められた授業科目を履修して62単位以上を修得した者には卒業を認定する。
- ② 他の短期大学又は大学において修得した単位を、30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修によって修得したものとみなし、上記①の卒業認定単位に算入することができる。外国の短期大学又は大学において修得した単位もこれに準じる。
- ③ 他の短期大学又は大学以外の教育施設等における学修については、本学における履修とみなして30単位を超えない範囲で単位を与え、上記①の卒業認定単位に算入することができる。
- ④ 本学入学以前に在籍した短期大学又は大学において修得した単位については、本学における授業科目の履修によって修得したものとみなし、上記①の卒業認定単位に算入することができる。
- ⑤ 上記④において本学における履修とみなすものと上記②の単位の合計は30単位を超えないものとする。
- ⑥ 上記④において本学における履修とみなすものと、外国の短期大学又は大学において修得した単位を合算する場合は45単位を超えないものとする。
- ⑦ 1年次の「現代社会と食」「基礎ゼミ」及び2年次の「卒業研究」を卒業必修科目とする。

(3) 資格・免許の取得に必要な単位数

こども学専攻 保育士資格取得(73単位)
幼稚園教諭二種免許取得(84単位)
保育士資格・幼稚園教諭二種免許重複取得(94単位)

栄養専攻 栄養士免許取得(68単位)
栄養士免許・栄養教諭二種免許重複取得(92単位)
※栄養教諭二種免許は栄養士免許を基礎資格とするので、栄養教諭二種免許のみの取得はできない。

2 教育上の目的に応じて学生が修得すべき知識及び能力にかかわる情報

高校で履修しておくことが望ましい科目

こども学専攻 家庭基礎、保健、美術Ⅰ、音楽Ⅰ、体育、国語総合

栄養専攻 家庭基礎、保健、科学と人間関係、生物基礎、化学基礎

3 カリキュラムポリシー、授業科目、履修方法及び年間授業計画等

授業科目、履修方法及び年間授業計画は、本学HPの「情報の公表」で公表しています。

(1) こども学専攻カリキュラムポリシー

こども学専攻は、保育・幼児教育にかかわる専門教育の課程として、保育士と幼稚園教諭の二資格を取得するために、専門教育と教養教育が多角的に連携するカリキュラムを編成しています。

専門教育にあっては、講義を通して保育と幼児教育の理論を基礎から学び、演習によって保育園実習や幼稚園教育実習に向けた基礎的な技能を修得して職業能力の獲得につなげます。このような学修によって学生を知識と実践力を兼ね備え、使命感や責任感に満ちた保育者・幼児教育者に育てます。教養教育は、学生が豊かな人間性と生きる力や問題解決力、社会的活動力やコミュニケーション力などの人間的諸力を養うために、学生自身の意思で科目を選択する学修体系としています。

また、本学生活学科の特色である食育について、学科教養の食育科目と卒業研究の履修の一方で、こども学専攻に食育関連科目を設置し、食育実践力を持つ保育者・幼児教育者を育成します。

このように、こども学専攻は、このカリキュラムによって学生が主体的に学んで知識や実

践力を身につけ、保育者・幼児教育者としての総合的な資質の向上を実現することを教育の目的としています。

(2) 栄養専攻カリキュラムポリシー

栄養専攻は、現代の栄養・栄養教育と食育にかかわる専門教育の課程で、栄養士と栄養教諭の二資格を取得することを教育の中心においています。そのために栄養専攻は、専門教育と教養教育を多角的に連携するカリキュラムを編成して、学生が授業を通じて向上的に変化し、自発的かつ主体的に知識や実践力を身につけ、学外実習でそれらを生かし、職業能力の向上につながる実習になるように教育します。

専門教育においては、講義によって栄養と食育に関する理論の基礎を修得し、演習と実習・実験で栄養士・栄養教諭に求められる実際的な技術・技能を学びます。教養教育では学生の選択範囲を広げ、栄養指導や食育に携わる者としての人間理解を深め、状況把握力や問題解決力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、社会的活動力などを学生が自ら高めることができる体系としています。

また、本学生生活学科の特色である食育についても、専門教育における食育の学修とともに、学科教養の食育科目と卒業研究の履修によって食育実践能力を養います。

この栄養専攻カリキュラムによって、栄養専攻は、学生が自らの目的意識に従って知見を深め職業能力を獲得し、栄養士・栄養教諭としての総合的な資質の向上を実現することを教育の目的としています。

4 カリキュラムマップ

カリキュラムマップは、本学HPの「情報の公表」で公表しています。

VI 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

1 修学に対する支援

(1) 入学前の支援

- ① こども学専攻ではピアノ練習課題、栄養専攻では栄養に関わる課題と栄養士に関する調べ学習を全員に課し、希望者には個別に指導を行う。
- ② 3月下旬に、こども学、栄養、両専攻の入学予定者を全員招集して指導機会を設ける。
 - ア. こども学専攻はピアノの個人指導を行う。
 - イ. 栄養専攻は化学の課題と栄養士に関する調べ学習の援助的指導を行う。
 - ウ. 専攻ごとの指導終了後、両専攻の入学予定者と本学の1年生と合同のワールドカフェ形式の懇談会を行う。
- ③ 入学予定者からの課題等に関する質問や相談については、両専攻の教員が対応して疑問や問題点の整理・解決を支援する。

(2) 入学直後の支援

- ① 入学式終了後に新入生ガイダンスを実施する。
 - ア. 教務課長から学生としての心構えと目的意識(資格・免許取得)について説明する。
 - イ. 基礎ゼミ担当教員から専攻カリキュラムと履修登録について説明する。
 - ウ. クラスアドバイザーから各種学外実習と学生相談について説明する。
- ② 入学第3日目から授業を開始し、初回の授業でシラバスをもとに科目の達成課題、学修の取り組み方、学修の評価について担当教員が指導する。
- ③ 各専攻の教員が高校の調査書から、高校で履修しておくことが望ましい科目(前記Vの2参照)の学習状況をチェックし、学生からの学修相談への対応を準備する。
- ④ 入試課から各専攻へ、新入生の入試面接の口頭試問についての情報を伝える。
- ⑤ こども学専攻については、キャリアプランの初回の授業から高校の学習の復習に取り組む。
- ⑥ 学生課からワークスタディ(校内アルバイト)の募集及び登録について説明会を行う。

2 進路選択に関する支援

- (1) 進学(大学への編入等)については、キャリアサポートセンターが学生の相談に応じて、必要な支援やアドバイスを行う。
- (2) 就職については、キャリアサポートセンターが学生の相談に応じて、必要な支援やアドバイスを行う。
 - ① 企業等から寄せられた求人票を公開するとともに、収集している採用情報を学生に伝える。
 - ② ハローワークなど外部機関と提携して、求人・採用に関する情報提供と支援を行う。
 - ③ ジョブサポーターの来訪指導を実施する。
 - ④ 学生に対する動機付けのために様々な業種の外部講師の講演会を開催する。
 - ⑤ 就職した卒業生の体験を聞く会を開催する。
 - ⑥ 個人面談を年5～6回実施し、動機付けや情報提供を行う。
- (3) 単位化しているインターンシップについては、担当教員が学生の相談に応じて、必要な支援やアドバイスを行う(年間5日の実施で1単位を認定する)。
- (4) 就職試験・編入試験のための対策講座や小論文指導を実施する。
- (5) キャリアサポートセンターの専任教員が常時学生の相談に応じる。

3 学生相談の体制(学生の心身の健康への支援)

- (1) 相談体制
保健センター(校医及び主事)、学生相談室(カウンセラー)、オフィスアワー(全教員)を窓口とする。クラスアドバイザーを含む各専攻、学生課と連携して学生の相談に対応する。
- (2) 学生の心身の健康のための支援の充実
 - ① 学生の健康、学業、進路、学費・経済、アルバイト、人間関係、心の問題等の相談について、学生が相談しやすい窓口を求められる体制を用意している。
 - ② 日常的にはクラスアドバイザーが学生の相談に応じ、問題によって専門部署への相談をアドバイスし、必要に応じて仲介の労をとる。
 - ③ 学生の学業、進路、人間関係等の問題については、各専攻、学生課、キャリアサポートセンターが積極的に学生にかかわる。
 - ④ 学生の健康、学費・経済、心の問題等のプライバシーに留意すべき問題については、クラスアドバイザー、カウンセラー、学生課長等の限定したメンバーで協議して対策を講じる。
 - ⑤ 各専攻会議や学生課が軸となって学生相談の情報の共有と円滑化を図る。
 - ⑥ 校医を兼務する専任教員が、学生の健康診断や健康相談と応急的な治療を行う。
 - ⑦ 学寮(女子寮)には寮母が常駐して、寮生の生活支援と生活環境の整備にあたる。